

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00~12:00, 13:00~17:00

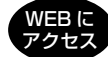
●フリーダイヤル  
☎ 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。  
※長くお待ちする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 786-5122	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点を確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>



バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99262301 105 G

# HIKOKI

## 取扱説明書

### 用途

- 各種木材の切断
- 各種化粧板、薄物樹脂板、軟質新建材の切断

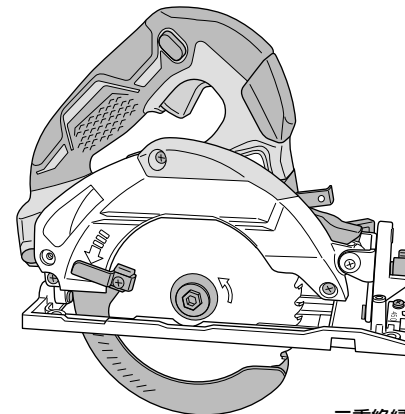
## 深切り電子丸のこ

125 mm C 5MEY(SK)

## 深切り電子リフォーム用丸のこ

125 mm C 5REY(SK)

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



C 5MEY(SK)

二重絶縁



### はじめに

電動工具の安全上のご注意	1
二重絶縁について	5
本製品の使用上のご注意	5
仕様	8
各部の名称	9
標準付属品	11
別売部品	12

### 使い方

ご使用前の準備	13
ご使用前の点検	14
各種調整方法について	17
各種操作方法について	21
LEDライトの警告シグナルについて	22
キックバックについて	23
キックバック軽減システムについて	24
直角に切断する	25
傾斜切断する	27
際切りする	29
のこ刃の交換	31
別売部品の取付け方	33

### その他

保守・点検	35
故障診断	37
ご修理のときは	裏表紙

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

## ⚠警告、⚠注意、注 の意味について

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## 電動工具の安全上のご注意

### ⚠警告

感電、火災、重傷を招く事故を未然に防ぐため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

なお、文中の「電動工具」とは、電源式（コード付き）電動工具を示します。

#### 作業場の安全性

- ① **作業場は整理整頓して、十分な照明を確保してください。**  
散らかった暗い場所や作業台は、事故を招く恐れがあります。
- ② **爆発を誘引することがある可燃性の液体やガス、または粉じんがある所で電動工具を使用しないでください。**  
電動工具から発生する火花が発火の原因になります。
- ③ **電動工具の使用中は、子供や第三者を近づけないでください。**  
注意が散漫になり、操作に集中できなくなる場合があります。

#### 電気に関わる安全性

- ① **電動工具の電源プラグに合ったコンセントを使用してください。電源プラグを改造しないでください。また、アダプタプラグをアース（接地）された電動工具と一緒に使用しないでください。**  
改造していない電源プラグおよび、それに対応するコンセントを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。
- ② **電動工具の使用中は、金属製のパイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などアース（接地）されている物に体を接触させないようにしてください。**  
体が触れた場合、感電のリスクを増大させます。

### ⚠警告

屋外で使用する際には、③～⑤の注意が必要です。

- ③ **電動工具は、雨または湿気がある状態にさらさないでください。**  
電動工具に水が入ると、感電のリスクが増大します。
- ④ **コードを乱暴に扱わないでください。**
  - 電動工具を移動させたり、引いたり、または電源プラグを抜くためにコードを利用しないでください。
  - コードは、熱、油、角のとがった所、または動く物からはなしておいてください。コードが損傷したり、絡まったりすると、感電のリスクが増大します。
- ⑤ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**  
屋外使用に適したコードを使用すれば、感電のリスクは軽減されます。

#### 人への安全性

- ① **電動工具の使用中は、油断をせず、常識を働かせ、いま自分が何をしているかに注意して作業してください。**  
疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいるときは使用しないでください。一瞬の不注意で、深刻な傷害を招く場合があります。
- ② **安全保護具を使用してください。**
  - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
  - 滑り防止安全靴やヘルメット、耳栓やイヤマフなどの安全保護具を使用することで、傷害のリスクが軽減されます。
- ③ **不意な始動を避けるため、電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。**  
スイッチに指を掛けて運んだり、スイッチが入っている電動工具の電源プラグをさし込むと、不意に始動し事故を招く恐れがあります。
- ④ **電動工具の電源を入れる前に、調整キーまたはレンチをはずしてください。**  
工具の回転部分にレンチまたはキーを付けたままにしておく、傷害を招く恐れがあります。
- ⑤ **無理な姿勢で作業をしないでください。**  
常に適切な足場とバランスを維持することで、予期しない状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
  - だぶだぶの衣服や装飾品は着用しないでください。
  - 髪や衣服、および手袋を回転部に近づけないでください。  
回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ **集じん装置が接続できる物は、適切に使用してください。**  
粉じんによる人体への悪影響を軽減することができます。

## ⚠ 警告

### 電動工具の使用および手入れ

- ① 無理に使用せず、用途に合った電動工具を使用してください。  
用途に合った電動工具を使うことでより良く、安全な作業が行えます。
- ② スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は事故を招く恐れがあるので、使用せず修理を依頼してください。
- ③ 誤作動防止のため、次の作業前は電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  - 準備や調整・修理。
  - 付属品や別売部品の交換。
  - 保守・点検や保管。
  - その他、危険が予想される場合。このような安全対策によって電動工具を誤って始動させるリスクが軽減されます。
- ④ 使用しない電動工具は、子供の手の届かない所に保管し、電動工具に不慣れな者や取扱説明書を読んでいない者には電動工具を使用させないでください。  
電動工具を扱い慣れていない者に渡すと事故の原因になります。
- ⑤ 電動工具の保守・点検を適切に行ってください。
  - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
  - 異常がある場合は、使用する前に電動工具の修理を行ってください。電動工具の保守が不十分であることが、事故の原因となります。
- ⑥ 先端工具は、鋭利かつ清潔に保ってください。  
先端工具を適切に手入れし、先端を鋭利に整えておくことで、作業を円滑にし操作が容易になります。
- ⑦ 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件や、実際の作業を考慮し、取扱説明書に従って適切に使用してください。  
取扱説明書に書かれていない使用方法で作業すると、傷を招く恐れがあります。
- ⑧ 電動工具は異常な高温、または低温の場所で使用すると能力を十分発揮できません。

### 整備

- ① 電動工具の修理は、修理専門要員が純正交換部品だけを用いて行ってください。  
これにより電動工具の安全性を維持することができます。

### その他の項目

- ① 取扱説明書はお読みになった後も、使用する方がいつでも見られる所に大切に保管し、利用してください。  
他の人に電動工具を貸し出す際は、取扱説明書も一緒にお渡しください。

## ⚠ 警告

- ② 加工する物をしっかりと固定してください。  
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。  
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ③ 作業前に確認してください。
  - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
  - 巻き込まれる恐れのある手袋はしないでください。
  - 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
  - 保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定の機能を発揮するか確認してください。
  - コードや延長コードは事前に点検し、損傷している場合には修理・交換してください。
  - 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。
- ④ 電動工具は取扱説明書に従い、正しく使用してください。
  - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
  - 安全に能率良く作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
  - 電動工具は指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑤ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。  
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外の物を使用しないでください。
- ⑥ メンテナンスをきちんと行ってください。
  - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
  - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
  - 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
  - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
  - 損傷した電動工具や、付属品の修理や部品交換は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故の原因になります。

## 二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

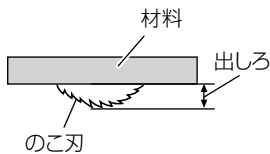
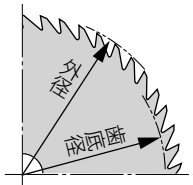
お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に回マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、まちがって組み立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

## 本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、深切り電子丸のこ / 深切り電子リフォーム用丸のこについて、次に述べる注意事項を守ってください。

### 警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。  
表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 直流電源、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。  
製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。
- ③ 保護カバーを固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。  
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。
- ④ のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が100 mm 以下ののこ刃は使用しないでください。  
保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。
- ⑤ 切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃が挟み付けられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
- ⑥ 切断する材料は、安定性の良い台に置いてください。
- ⑦ 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性の良い台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。



### 警告

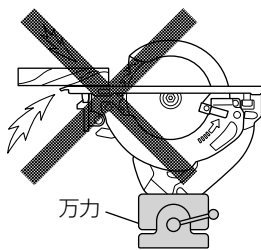
- ⑧ 使用中は、機体を確実に保持してください。
- ⑨ 使用中は、のこ刃や回転部、切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。
- ⑩ 切断途中や切断後、のこ刃を回転させたまま機体を戻さないでください。  
スイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。  
回転させたまま機体を戻したり、持ち上げたりすると、キックバックが発生する原因になります。
- ⑪ 使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
- ⑫ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
- ⑬ 雨または湿気がある状態にさらさないでください。  
雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。故障や感電、発煙の恐れがあります。

#### ○騒音防止規制について

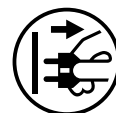
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

## ⚠️ 注意

- ① 刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。  
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。  
キックバックが発生する原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。また、用途以外の材料（金属など）は切断しないでください。  
のこ刃の破損や、キックバックが発生する原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に載せたまま作業しないでください。  
手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。
- ⑨ 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。  
感電の恐れがあります。
- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
- ⑪ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。  
機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑬ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。
- ⑭ LEDライトをのぞき込んで、直接LEDライトの光を目に当てないでください。
- ⑮ 機体を作業台や床に置くときは、のこ刃の回転が完全に停止して、保護カバーで、のこ刃がおおわれていることを確認してください。  
機体が自走して、けがの原因になります。



## ⚠️ 警告マークについて



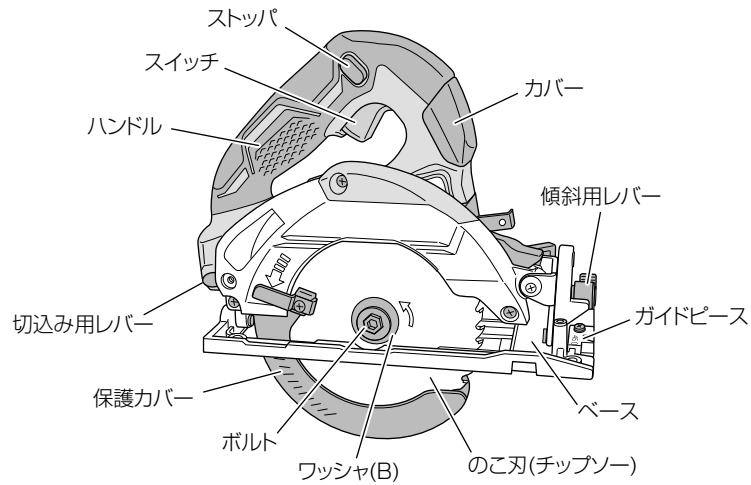
このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。  
電源プラグをコンセントにさしたまま準備や点検、先端工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

## 仕様

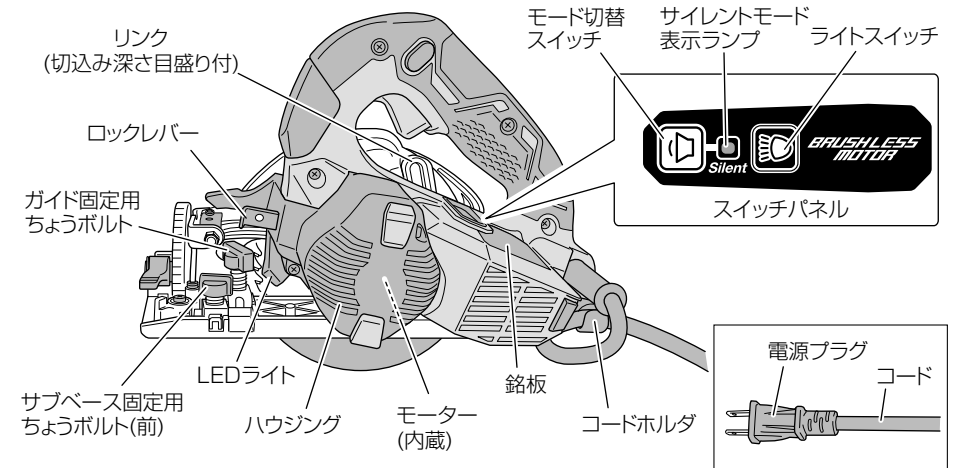
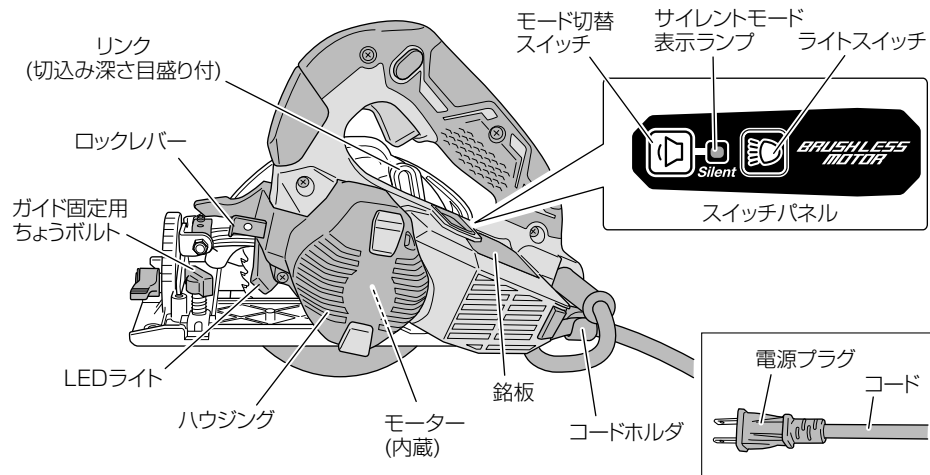
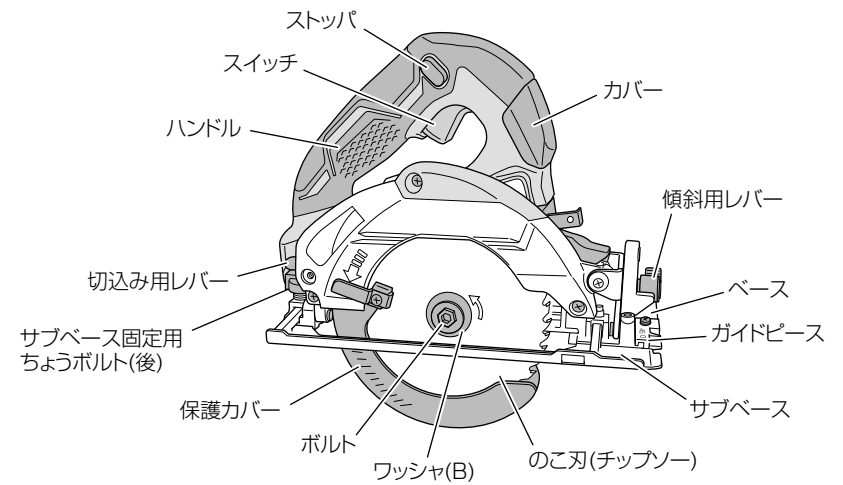
形名	C 5MEY(SK)	C 5REY(SK)
使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V	
最大切込み深さ	90°/45°	47 mm (90°)/30 mm (45°)
	際切り	20 mm (逆 15°)
使用できるのこ刃	外径 120 ~ 125 mm × 穴径 20 mm	
無負荷回転数	パワーモード時: 7,000 min <sup>-1</sup> {回/分} サイレントモード時: 3,500 min <sup>-1</sup> {回/分}	
全負荷電流	12 A	
消費電力	1,050 W	
モーター	ブラシレス	
寸法 全長 × 高さ × 全幅	254 × 176 × 230 mm	
質量 (のこ刃、コードを除く)	2.2 kg	2.3 kg
コード	2心キャブタイヤケーブル 5 m	
LEDライト	白色LED	
サイレントモード表示ランプ	青色LED	

# 各部の名称

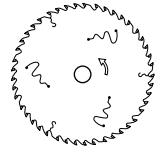
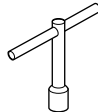
[C 5MEY(SK)]



[C 5REY(SK)]

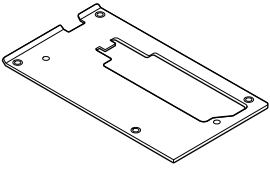


## 標準付属品

品名	形名	C 5MEY(SK)	C 5REY(SK)
<b>スーパーチップソー<sup>クロシャチ</sup>黒鯨</b> (本体装着) 外径 125 mm 穴径 20 mm 刃数 45 P		1 枚	1 枚
<b>ボックススパナ</b>		1 個	1 個

## 別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

<b>各種のこ刃</b> 各種取りそろえております。 用途に応じてお選びください。		<b>ガイド</b> ガイドバー 1 本の丸のこ用ガイドです。 (P.33「ガイド」参照)	
<b>ダクトアダプタ</b> 切粉排出口に取付けて、集じん機に接続します。 (P.33「ダクトアダプタ」参照)		<b>フック</b> 単管 (φ48) や木材などにつり下げるときに便利です。 (P.34「フック」参照)	
<b>フッ素プレート【C 5MEY(SK)のみ】</b> 材料との摩擦が少なく、なめらかな切断を可能にします。 (P.34「フッ素プレート」参照)			

## ご使用前の準備

### ●作業場は整頓をし、明るくしてお使いください

### ●漏電しゃ断器の設置

本製品は二重絶縁構造のため、法令により漏電しゃ断器の設置は免除されています。しかし、万一の感電を防止するためにも漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをお勧めします。

### ●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さと、最大の長さです。

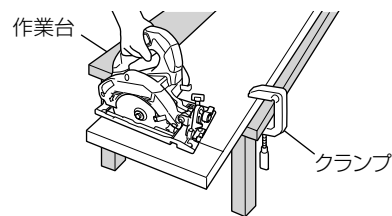
これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

コードの太さ (mm <sup>2</sup> ) (導体公称断面積)	最大の長さ (m)
1.25	10
2	15
3.5	30

※ 導体公称断面積は、コードに表示されています。

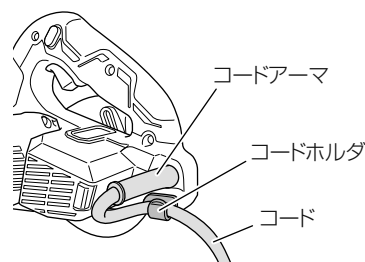
### ●作業台(木製)を用意します

- この刃が材料の下面より出ますので、作業台の上に置いて材料を切断します。
- 材料の切り残し側を、しっかり押さえてください。
- クランプなどでしっかり固定すれば、両手で作業することができます。



### ●コードホルダを使う場合

コードホルダを使用し、図のようにコードを機体の後側に出すことができます。作業により、コードが邪魔になる場合はコードを引っ掛けて、コードの向きを変えてください。



## ご使用前の点検

### ⚠警告

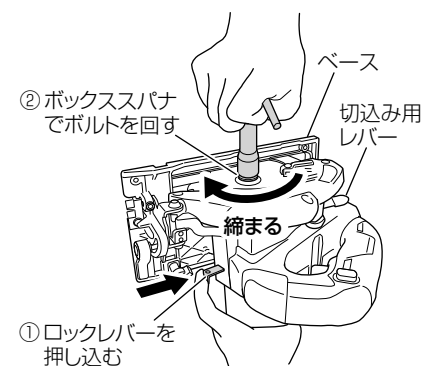
① ストップパや② ロックレバーが元の位置に戻らない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

### 1 スイッチが切れていることを確かめる

- 本製品は、スイッチが入っている状態で電源プラグをコンセントにさし込んでも起動しない構造となっておりますが、事故防止のためスイッチが切れていることを確認してください。
- スイッチを引き、ストップがはずれていることを確認してください。(P.21「スイッチの操作について」参照)

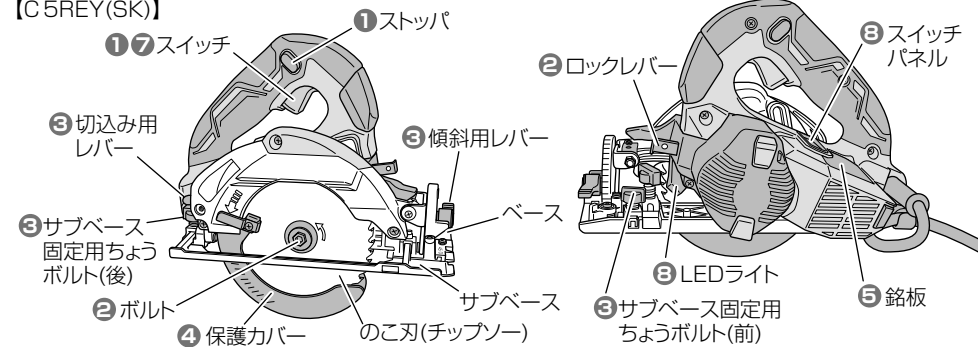
### 2 この刃の締付けを確かめる

- ロックレバーを押し込みながら、付属のボックススパナでボルトを時計方向に回すと、この刃の回転が止まる位置があります。その状態のまま締付けます。
- ボックススパナでボルトを締付ける際、ベースが邪魔になるときは切込み用レバーをゆるめベースを動かし切込み深さを浅くしてください。



この刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻ることを確認してください。

【C5REY(SK)】

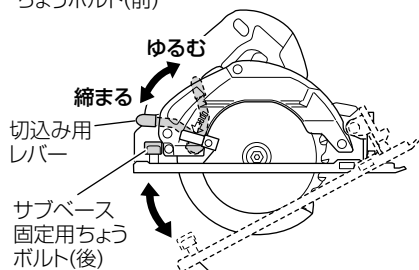
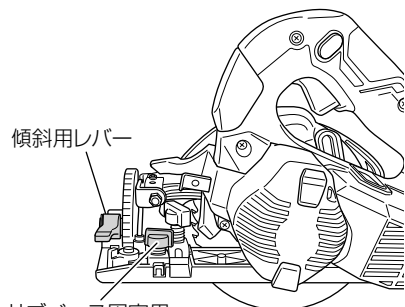




## 警告

- ④ 保護カバーが円滑に動かない場合、
- ⑦ ブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

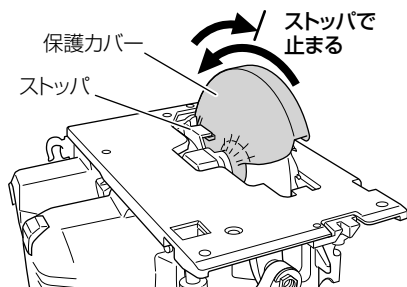
## 3 切込み用レバー、サブベース固定用ちょうボルト(前)(後)の締付けを確認する



【C 5REY(SK)】

## 4 保護カバーの動きを確認する

- 保護カバーは、のこ刃が体に触れることを防ぎます。のこ刃をおおるように、円滑に動くことを確認してください。
- 保護カバーとストッパに、すき間がないことを確認してください。
- 保護カバーを動かして戻すとき、ストッパに当たり、止まることを確認してください。



## 5 電源を確認する

- 銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。
- 直流電源、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

## 6 コンセントを確認する

電源プラグをコンセントにさし込んだ際に、ガタつきがあるときは修理が必要です。

そのまま使用すると危険です。電気工事店にご相談ください。

## 7 ブレーキがかかることを確認する

本製品はスイッチを切ると同時に、のこ刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。

使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

**注** 溶接機のすぐ近くで作業すると回転が不安定になることがあるので、溶接機のすぐ近くでは使用しないでください。

## 8 ライトの点灯を確認する

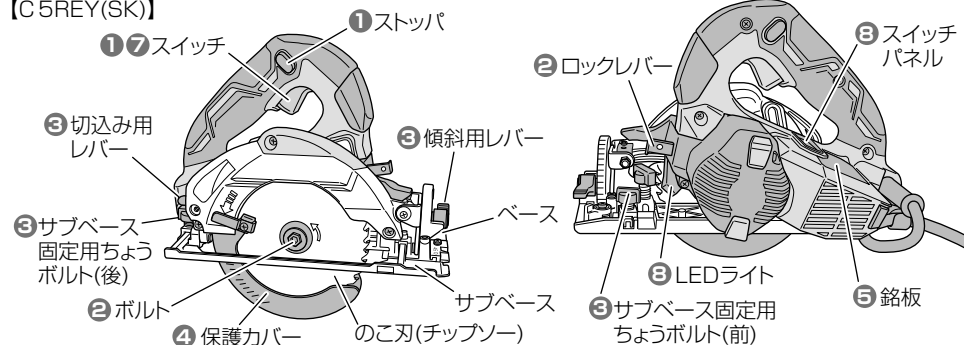
スイッチパネルのライトスイッチを押すと点灯し、再度押すと消灯します。

ライトは、刃先の左右両側を照射します。



ライトスイッチ

【C 5REY(SK)】



# 各種調整方法について

## ●切込み深さの調整

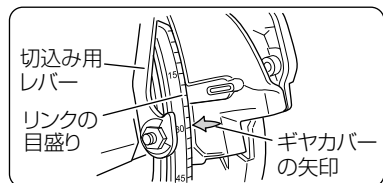
切断する材料の厚みに応じて、切込み深さを調整できます。

リンクおよび保護カバーには、のこ刃外径 125 mm 用のリンクの目盛りが付いています。目盛り線は 3 mm (1 分) 刻みです。

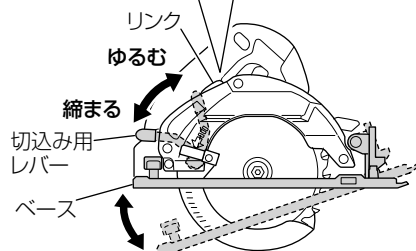
ベースとのこ刃が直角のときは、この目盛りを目安に切込み深さが調整できます。

**注** リンクおよび保護カバーに付いている目盛り線は、傾斜切断のときは使用できません。

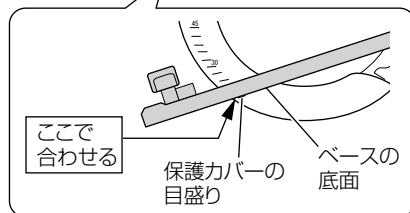
切込み深さを調整するときは、のこ刃のでばり量を実測してください。



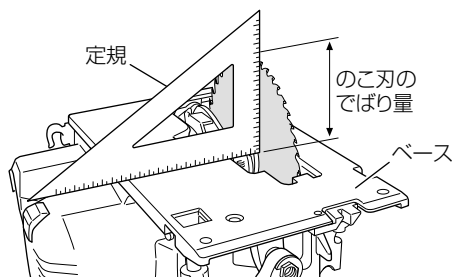
**1** 切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



**2** ギャカカバーの矢印に目盛りを合わせてください。または、ベースの底面と保護カバーの目盛りを合わせてください。



**注** 目盛り線は目安のため正確に調整するときは、のこ刃のでばり量を実測してください。

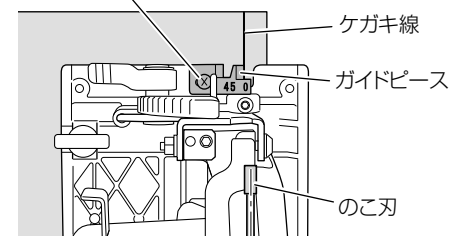
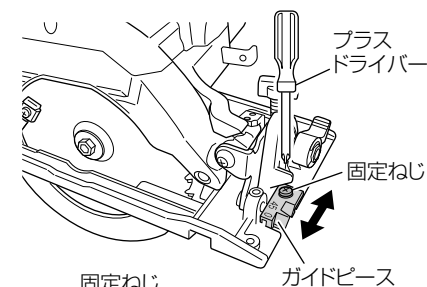


## ●ガイドピースの微調整

ガイドピースの取付け位置を微調整できます。

出荷の際には、ガイドピース切欠部の直線部分をのこ刃の刃部側面に合わせてありますが、取付け位置が狂った場合は、ガイドピースの固定ねじをゆるめ、位置を調整してください。

お手持ちのプラスドライバーで固定ねじをゆるめ、ガイドピースを左右に動かし位置を調整してください。



【C5MEY(SK)】

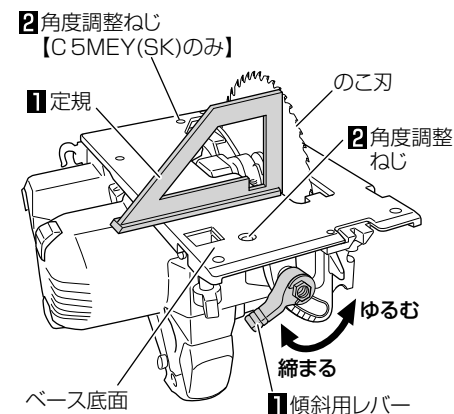
## ●直角度の微調整

直角度(ベースとのこ刃の角度)を微調整できます。

角度が狂った場合は次のように調整してください。

**1** 傾斜用レバーをゆるめ、ベース底面とのこ刃に定規を当てて直角を出し、傾斜用レバーを軽く締めます。

**2** 角度調整ねじ\*の先端がベースの金属製部品に当たるまで、お手持ちの六角棒スパナ(2.5 mm)で角度調整ねじを回し、傾斜用レバーをしっかりと締付けます。



※ C5MEY(SK)のみ、ねじ(2個)使用

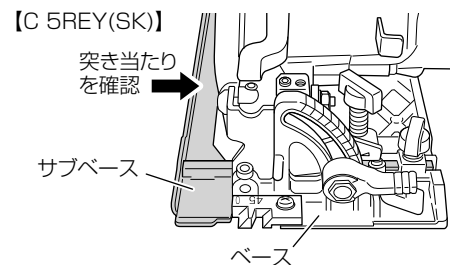
## ● 平行度の微調整

ベース側面とのこ刃の平行度を M4 ナットで微調整できます。

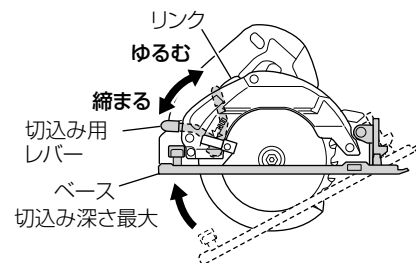
平行度が狂った場合は次のように調整してください。

- 1 サブベースがベースに突き当たっていることを確認します。  
【C 5REY(SK)のみ】

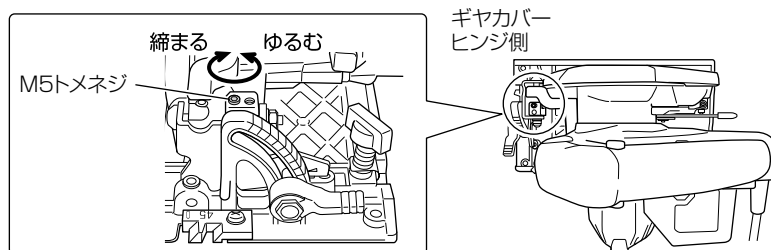
**注** 切込み深さを調整後、平行度の調整を行ってください。  
(P.25「直角に切断する」①参照)  
平行度調整後、切込み深さの調整を行うと、平行度が若干狂う場合があります。



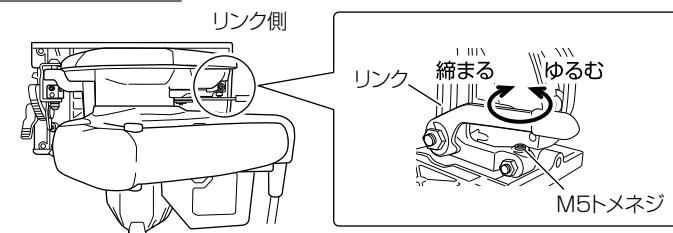
- 2 切込み深さを最大位置でリンクを固定します。



- 3 ギヤカバーヒンジ側の M5 トメネジを、お手持ちの六角棒スパナ (2.5 mm) でゆるめず。

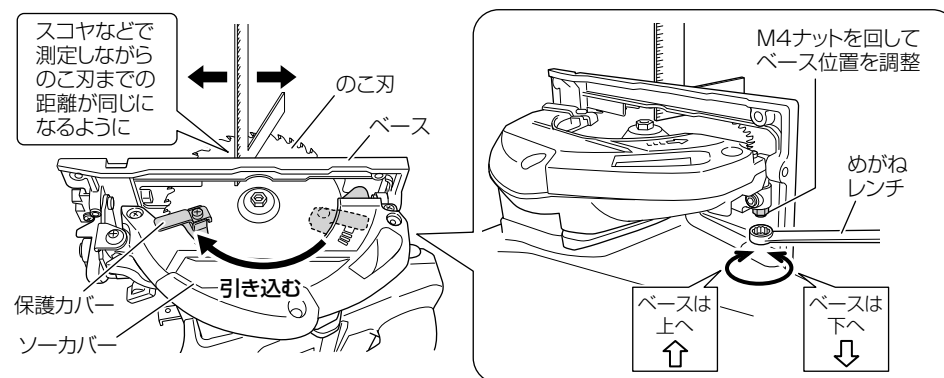


- 4 リンク側の M5 トメネジをお手持ちの六角棒スパナ (2.5 mm) でゆるめず。



- 5 保護カバーをソーカバーの中に引き込み、スコヤなどをベースに沿わせず。

**3 4** により、M4 ナットを回すことでベースが動きます。ベース側面からのこ刃までの距離が全体で同じになるように、スコヤで測定しながら M4 ナットをお手持ちのめがねレンチ (7 mm) 等で回してベース位置を調整します。



- 6 平行度調整後、リンク側、ギヤカバーヒンジ側 (ゆるめの逆手順) の順に M5 トメネジをしっかりと締付けず。



# キックバックについて

## キックバックとは

回転中ののこ刃に、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは機体が作業者側にはじき飛ばされる現象です。

## キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるのこ刃の挟み込み
- ② 曲線切りなど、機体をかじる作業
- ③ 材料にのこ刃の刃先を当てた状態での起動

ほかにも、劣化したのこ刃の使用やかたい未乾燥材の切断、過度に深い切込み設定、過大な押し付けなど、複合的な原因があります。

## キックバックを避けるには

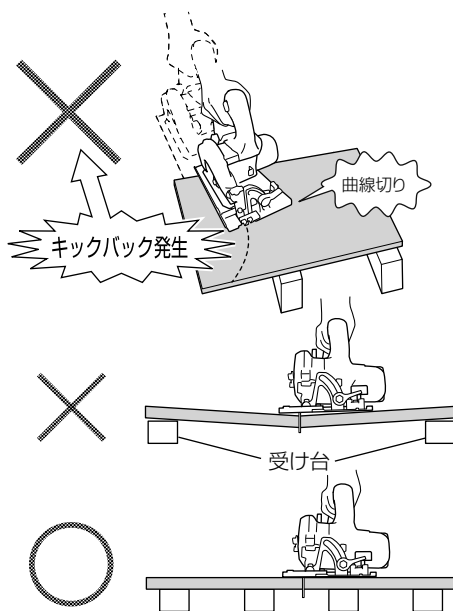
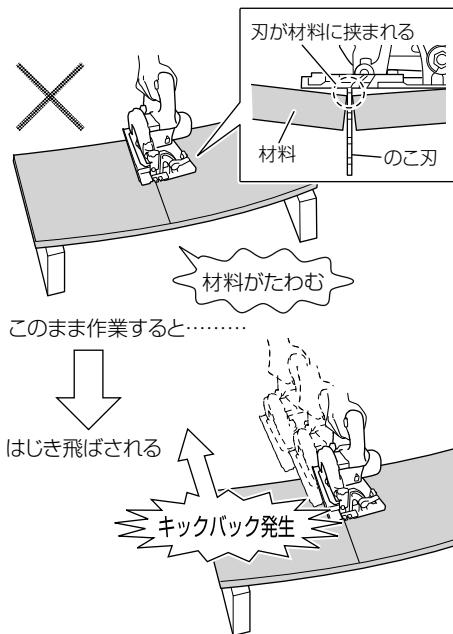
材料によるのこ刃の挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、のこ刃の挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近い所に受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、のこ刃を挟み込みます。

切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



# キックバック軽減システムについて

本製品は、モーターの回転数の変化を監視し、のこ刃の挟み込み等により、モーターの回転速度が急速に低下したとき、瞬時にモーターを停止することで、キックバックの動きを軽減する「キックバック軽減システム」が搭載されています。

## キックバック軽減システムが作動したら…

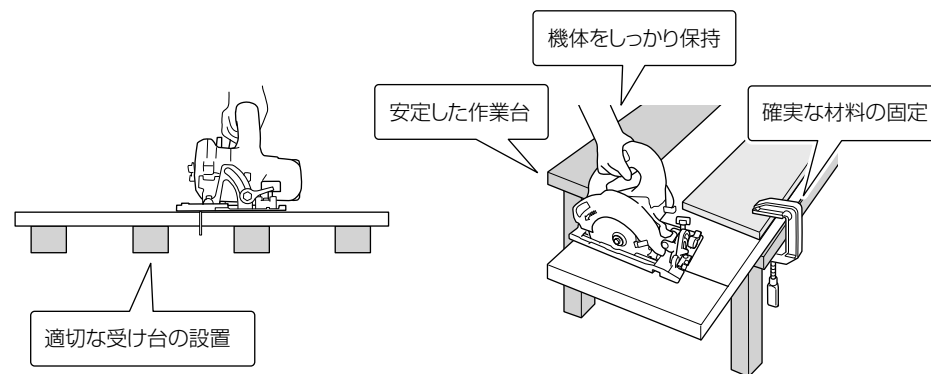
キックバック軽減システムが作動してモーターが停止したときは、

- ① 直ちに機体のスイッチを切る
- ② のこ刃にかかった負荷の原因を確認する
- ③ 過負荷となった原因を取り除く
- ④ 再度スイッチを入れる
- ⑤ 切断を再開する

## 注意していただきたいこと

「キックバック軽減システム」は、作業時の状況・条件等により作動しない、あるいは性能を十分に発揮できない場合があります。

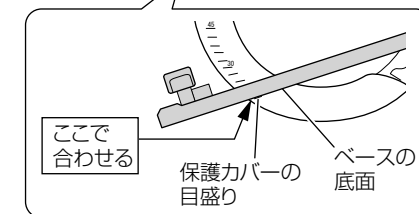
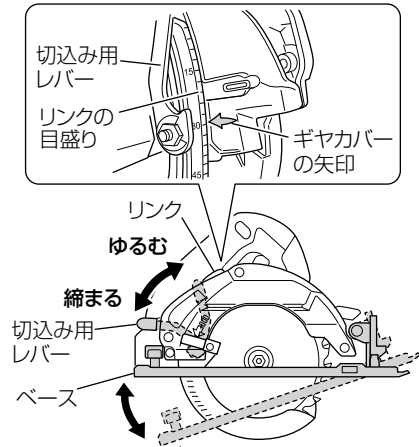
作業時は、確実な材料の設置・固定および機体の保持を行ってください。



# 直角に切断する

## 1 切断する材料の厚みに 応じて切込み深さを 調整する

P.17「切込み深さの調整」を参照してください。

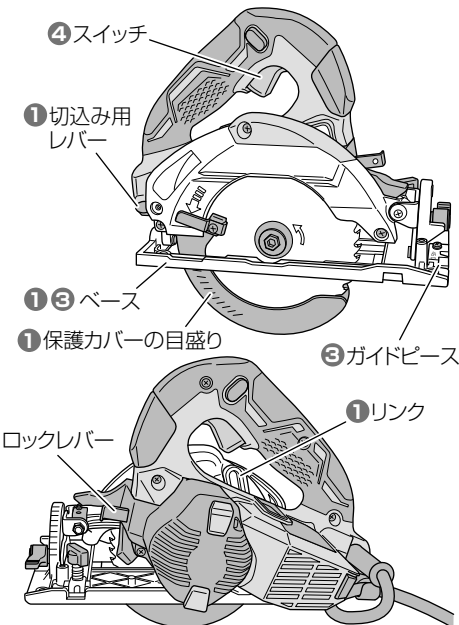
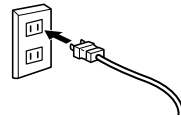


**注** 目盛り線は目安のため正確に調整するときは、のこ刃のばり量を実測してください。

## 警告

切込み深さの調整後、ベースがしっかり固定されていることを確認してください。

## 2 電源プラグをコンセントに さし込む

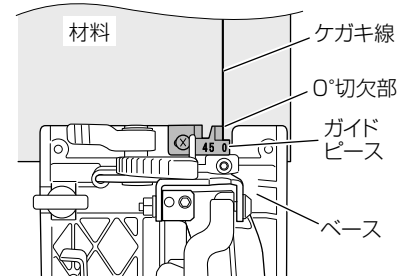


## 警告

- 運搬時にはスイッチから指をはなしてください。不意にモーターが起動し、思わぬ事故をおこすことがあります。
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。キックバックが発生する原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

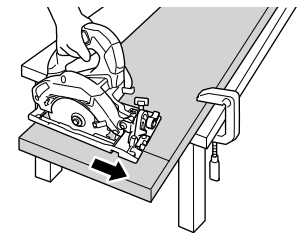
## 3 ケガキ線に合わせる

材料の上に機体(ベース)を載せ、ケガキ線にガイドピースの0°切欠部を目安に合わせます。



## 4 スイッチを入れ、ゆっくり 前方に進める

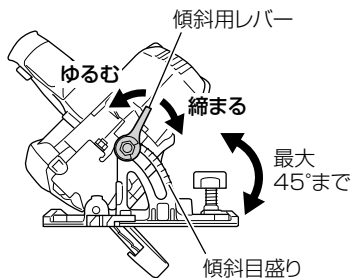
- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



# 傾斜切断する

## 1 傾斜角度を調整する

- 傾斜用レバーをゆるめ、傾斜角度を調整します。  
のこ刃をベースに対して、最大 45° まで傾けることができます。



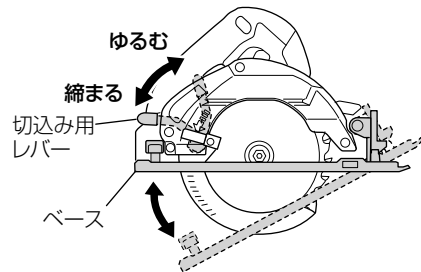
- 傾斜用レバー締付け部に、5° 刻みの傾斜目盛りが付いています。  
正確な角度で切断したい場合は、ベースとのこ刃の角度を定規で実測してください。

## 警告

調整後、傾斜用レバー、および切込み用レバーをしっかり締付けてください。

## 2 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整する

切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。

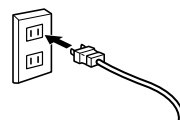


- 注** リンクおよび保護カバーに付いている目盛り線は、傾斜切断のときは使用できません。  
切込み深さを調整するときは、のこ刃のでばり量を実測してください。

## 警告

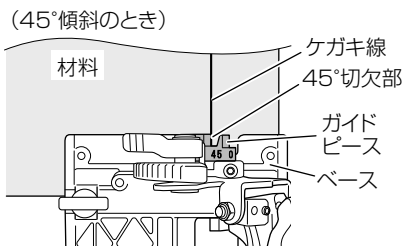
- 運搬時にはスイッチから指をはなしてください。  
不意にモーターが起動し、思わぬ事故をおこすことがあります。
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。  
キックバックが発生する原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

## 3 電源プラグをコンセントにさし込む



## 4 ケガキ線に合わせる

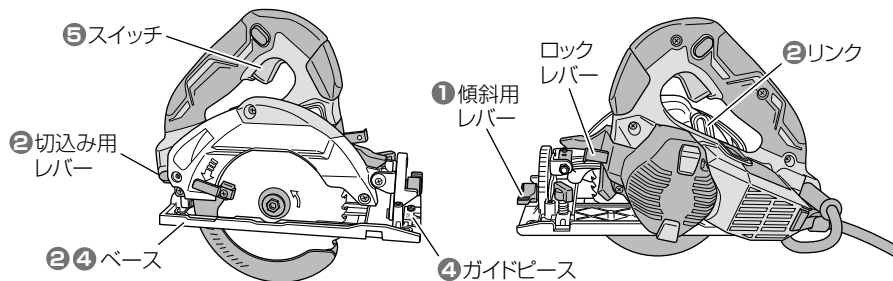
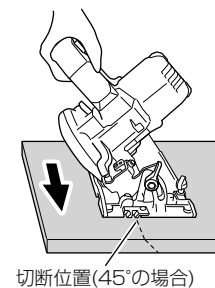
45° 傾斜するときは、材料の上に機体(ベース)を載せ、ケガキ線にガイドピースの小さい切欠部を目安に合わせます。



- 注**
- 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。
  - ロックレバーは、のこ刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
  - 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
  - のこ刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。

## 5 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



# 際切りする 【C5REY(SK)のみ】

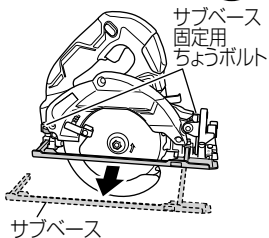
際切りのときは、パワーモードで作業します。  
(P.21「モード切替機能について」参照)

## 警告

- 切込み始めにキックバックが生じる場合があるので、機体をしっかり保持して作業してください。
- 機体の進行方向に対し、左側に体が位置するような姿勢で作業してください。  
機体の後ろに体を位置すると、キックバックが生じた場合、けがの原因になります。
- 際切りをするときも傾斜切断と同様の注意が必要です。  
(P.27、28の **警告**、**注** 参照)

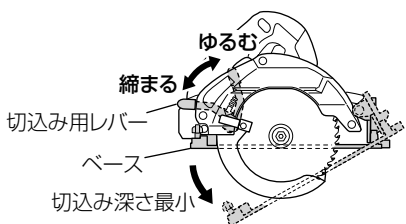
## 1 サブベースを取りはずす

サブベース固定用ちょうボルト(2個)をゆるめて、サブベースをはずします。



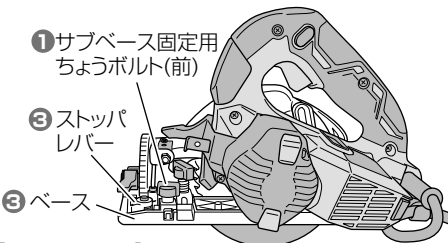
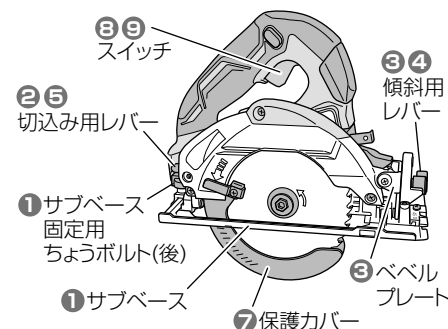
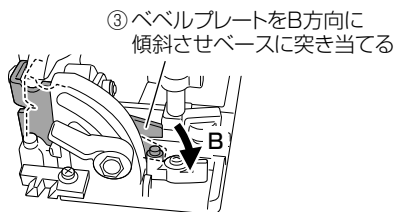
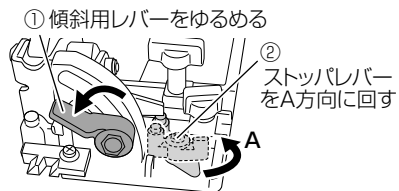
## 2 切込み深さを最小にする

切込み用レバーをゆるめ、のこ刃の切込み深さを最小にします。



## 3 機体を傾斜させる

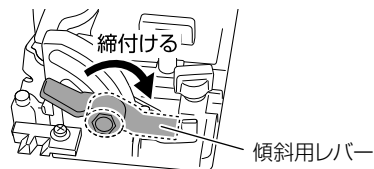
傾斜用レバーをゆるめ、ストップレバーを矢印 A 方向に回しながら、ベベルプレートがベースに突き当たるまで機体を矢印 B 方向に傾斜させます。



【C5REY(SK)】

## 4 傾斜用レバーを締付ける

機体傾斜後、傾斜用レバーをしっかりと締付けます。



## 5 切込み深さを調整する

際切りの切込み深さを0～20mmの間にのこ刃でばり量を実測して、調整してください。

**注** のこ刃のでばり量が20mmを超えていると、のこ刃を固定しているボルトの頭が壁に接触します。  
接触すると壁に傷が付く原因になります。

## 6 電源プラグをコンセントにさし込み、パワーモードに切り替える

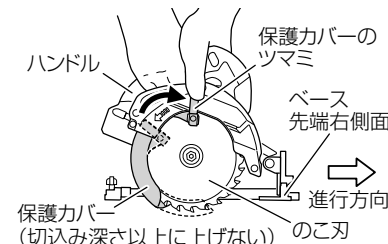
一度スイッチを引いて、パワーモードに切り替えます。  
サイレントモード表示ランプが点灯していないことを確認してください。  
(P.21「モード切替機能について」参照)

モード切替スイッチ      サイレントモード表示ランプ



## 7 際切りの位置を合わせる

機体のハンドルを持ち、もう一方の手で保護カバーのツマミを引いて図のように保護カバーを上げた状態のまま、ベース先端右側面を壁に当てます。  
このとき、切込み深さ以上に保護カバーを上げないでください。



**注** サブベースをはずした逆傾斜の状態では、のこ刃がベースの右側面より出ている場合は、傾斜角度を少し戻すとこの刃のでばり量を減らすことができます。

## 8 スイッチを入れる

- のこ刃が壁とフロアに接触していないことを確認して、スイッチを入れてください。
- のこ刃の回転が完全に上昇して安定したら、壁を切込まないように注意しながら、機体をゆっくりと下げてフロアの隅を切込んでください。

**注** 切込みを入れる場所に釘などの異物がかかっている場合があるので、作業中に異常を感じたらすぐスイッチを切り、作業を中止してください。

## 9 切断を終わる

切り終わったらスイッチを切にし、のこ刃の回転が完全に止まってから、機体を持ち上げてください。



# のこ刃の交換

**この作業時は必ずスイッチを切り、プラグを抜いてください。**

## 警告

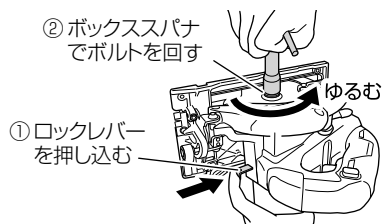
- のこ刃の交換は、安定した台や床の上で行ってください。
- ボルトの着脱は、付属のボックスパナで作業してください。付属以外の工具を使用すると、締めすぎや締付け不足になります。

### 1 切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを大きくする

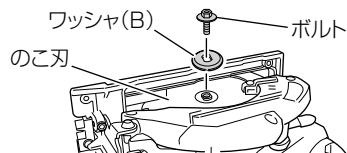
P.17「切込み深さの調整」を参照してください。

### 2 のこ刃軸を固定する

ロックレバーを押し込みながら、付属のボックスパナで、ボルトを反時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。この状態でのこ刃軸が固定されます。



### 3 ボックスパナを反時計方向に回し、ボルトとワッシャ(B)をはずす



### 4 のこ刃を取りはずす

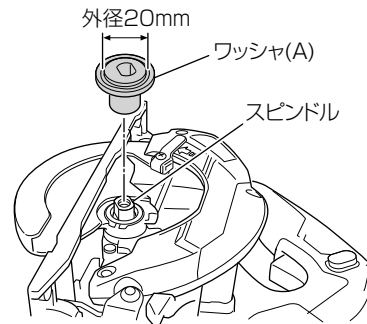
保護カバーのツマミを持って、保護カバーをソーカバーの中に引き込み、のこ刃を取りはずします。



**注** のこ刃の取付け前にソーカバー内側やスピンドル、ワッシャ(A)、ワッシャ(B)に付いている切りくずをよくふき取ってください。

### 5 ワッシャ(A)の穴形状をスピンドルの形状に合わせてさし込む

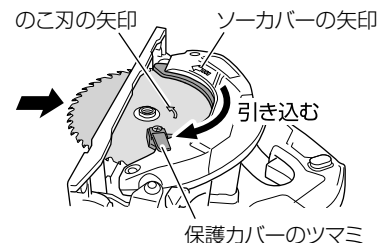
ワッシャ(A)は、穴径20mmののこ刃だけが取付けできるようになっています。



**注** 切断トイシは使用できません。

### 6 のこ刃を取付ける

保護カバーのツマミを持って、保護カバーをソーカバーの中に引き込み、のこ刃の矢印がソーカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。

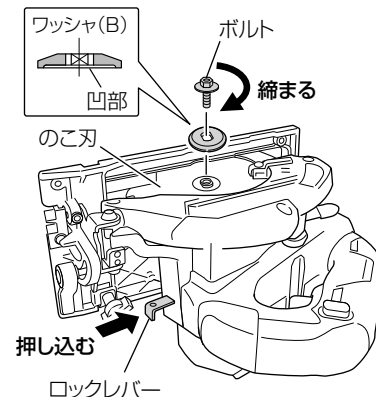


**注** ワッシャ(A)、ワッシャ(B)は機体に取付けてある物を使用してください。

### 7 のこ刃を固定する

ワッシャ(B)の凹部をのこ刃側にして取付け、ロックレバーを押し込みのこ刃軸を固定して、付属のボックスパナで、ボルトを時計方向にしっかりと締付けます。

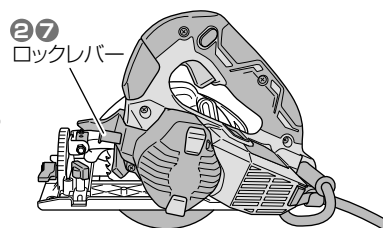
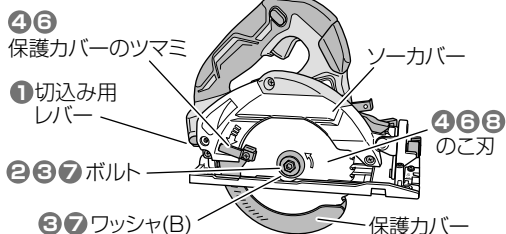
(P.14「ご使用前の点検」②参照)



のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻ることを確認してください。

### 8 のこ刃の取付けを確認する

ロックレバーを押さない状態で、ボックスパナでボルトを締まる方向に回すと、のこ刃が回転します。ガタつきやブレがなく、円滑に回転することを確認してください。

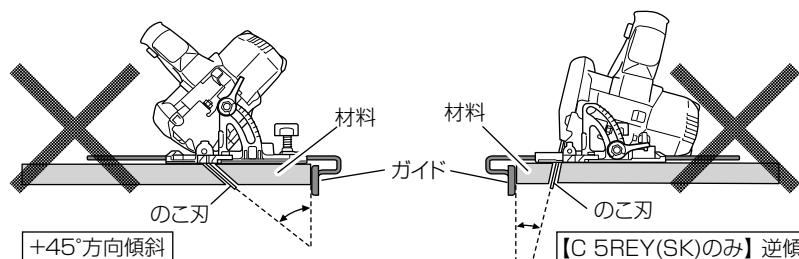


# 別売部品の取付け方

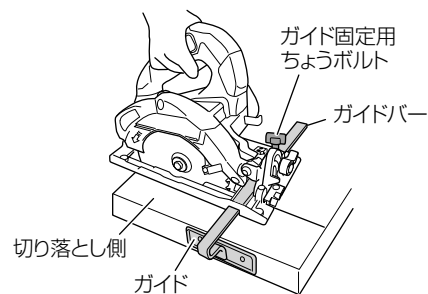
## ●ガイド

### ⚠警告

ガイドを使用する際、のこ刃とガイドの間に切り落とした材料が挟まるような傾斜切断はしないでください。  
思わぬけがの原因になります。



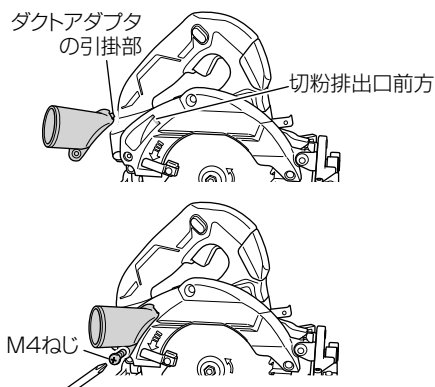
- ① ガイドバーを、ベース側面（切り落とし側）前方の穴に通します。
- ② ガイドを左右に動かして切断位置を調整し、ガイド固定用ちょうボルトを締付け、ガイドバーをしっかりと固定します。



## ●ダクトアダプタ

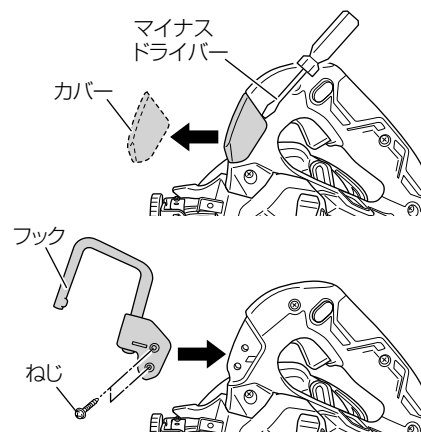
集じん機と接続する際、切粉排出口にダクトアダプタを取付けて使用します。  
集じん機に接続する際、集じん機側の内径が28mmのホースが接続できます。  
その他のホースサイズの物は、別売のホースアダプタが必要です。お問い合わせの販売店にお問い合わせください。

- ① ダクトアダプタの引掛部を切粉排出口前方にさし込みます。
- ② ダクトアダプタを付属のM4ねじで固定します。



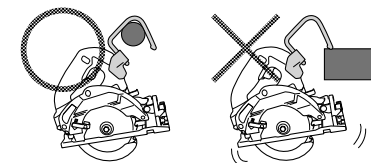
## ●フック

マイナスドライバーをすき間にさし込んで、ハンドルからカバーをはずします。  
ハンドルにねじでしっかり固定します。



### ⚠注意

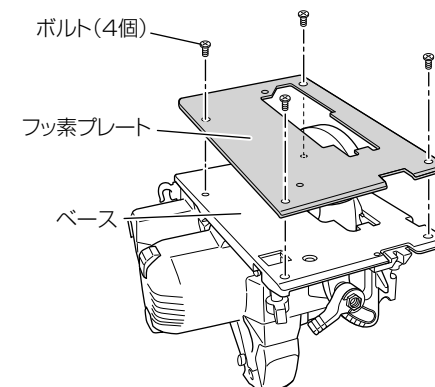
- 電源プラグをさしたまま、フックを使用しないでください。
- ベルトやズボンなど人体へのつり下げはしないでください。
- 高所ではフックを使用しないでください。
- つり下げた状態で機体を引いたりしないでください。
- フックは確実に掛けてください。



## ●フッ素プレート【C 5MEY(SK)のみ】

ベースにボルトでしっかり固定します。

- 注**
- 最大切込み深さが2.5mm浅くなります。
  - 木材以外を切断すると、フッ素コートがはがれ、ベースの滑りが悪くなります。
  - フッ素コーティングされたベース面は、滑りが良いためモーター部に無理がかかりやすくなっています。機体を強く押しすぎないでください。



## 保守・点検

### ⚠ 警告

- 点検・お手入れの際は、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- エアガンなどを用いて風穴や保護カバーなどに空気を吹き込む際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。  
排出された切粉等を吸い込んだり、目に入る可能性があります。

### ●機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。  
ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。  
異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

### ●のこ刃の点検

切れ味が悪いのこ刃を使用すると、モーターに無理がかかり作業の能率も落ちます。

### ⚠ 警告

切れ味の悪くなったのこ刃は使用しないでください。  
無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

### ●モーターの回転伝達部について

- 本製品は、切断時の振動低減のため回転伝達部にゴムダンパを使用しております。
- 50時間程度使用して、振動が大きくなってきたと感じられたらゴムダンパの摩耗・変形が考えられますので、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。  
ゴムダンパが摩耗・変形したまま使用し続けると、故障の原因になります。

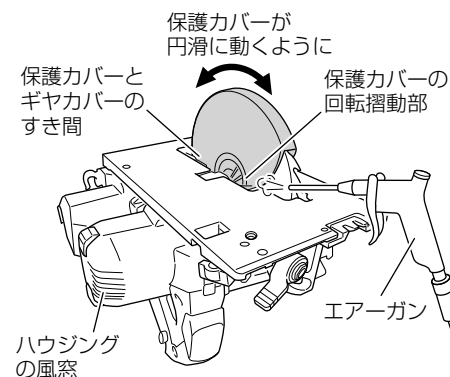
### ●モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）(P.9、10「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

**注** 50時間くらい使用しましたら、エアガンなどを用いて湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。  
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

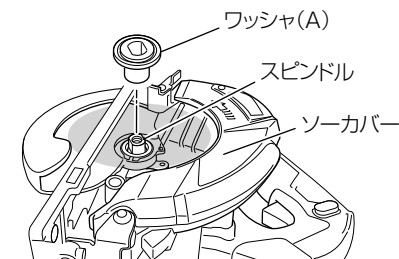
### ●保護カバーの点検と保守

- 保護カバーは、いつも円滑に動くようにしてください。  
なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。
- お手入れ・掃除の際には、エアガンなどを用いて湿気のない空気を保護カバーの回転摺動部や保護カバーとギヤカバーのすき間へ吹き込んでください。  
切粉等の排出に効果があります。  
保護カバーの周りに切粉等がたまると、作動の不具合や故障の原因になります。



### ●ソーカバー内側部の掃除

切粉等がたまらないように定期的に点検・掃除してください。  
点検・掃除は、のこ刃を取りはずして行ってください。



### ●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。  
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

### ●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- 注**
- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
  - 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
  - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
  - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

# 故障診断

# メモ

「故障診断」で対応できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

状況	原因	対策
動かない	電源プラグが抜けている	電源プラグを確実にコンセントにさし込んでください。
	機体が過熱状態になっている	機体を十分冷ましてください。
突然止まった	過負荷になった	大きな負荷を与えた原因を解消してください。
	キックバック軽減システムが作動	
	機体が過熱状態になった	機体を冷ましてください。
傾斜できない	傾斜用レバーがゆるんでいない	傾斜用レバーをゆるめてから傾斜させてください。
逆傾斜できない 【C5REY (SK) のみ】	切込みが最大になっている	切込みを浅くしてから逆傾斜させてください。
	傾斜用レバーがゆるんでいない	傾斜用レバーをゆるめてから傾斜させてください。
平行度微調整できない	ギヤカバーヒンジ側、およびリンク側のM5トメネジがゆるんでいない	それぞれのM5トメネジをゆるめてください。
切れ味が悪い	のこ刃が摩耗・欠けている	新品と交換してください。
	ボルトがゆるんでいる	しっかりと締めてください。
	のこ刃が逆に付いている	のこ刃を正しい方向に取付けてください。
スイッチがロックできない	ストッパの押し込みが足りない	ストッパを突き当たるまで押し込んでください。
切粉の排出が悪い	ソーカバー内に切粉が詰まっている	ソーカバー内の切粉を取り除いてください。
切断時の振動が大きくなった	モーターの回転伝達部のゴムダンパが摩耗・変形した	お買い上げの販売店に交換を依頼してください。